

福 井 県 医 師 会

だより

第572号 平成21年(2009)2月



白川郷のライトアップの一コマ

坂井地区 西野 慎吾

表紙写真説明：白川郷のライトアップの一コマ

坂井地区 西野 慎吾

医師会だより第518号 平成16年(2004)8月号の表紙に「世界遺産白川郷の合掌造り」と題した写真を掲載してもらいました。その際撮影した写真ですが、雪の降る中、赤の上着を着た女性の後ろ姿がおぼろに浮かび上がる幻想的な光景に気を惹かれました。

醫 縫 録

脳神経外科専門医の育成

福井大学医学部脳脊髄神経外科教授
福井県脳神経外科医会長

久保田 紀彦



福井県の脳神経外科医は、神経内科医と合同で「福井脳・神経疾患談話会」を年6回開催しており、平成20年9月までに178回開催され、29年の歴史がある。事務局は、福井大学脳脊髄神経外科が担当している。6回の内、2回は国内の著名な先生に特別講演を依頼している。研究会の内容は、症例検討であり、診断や治療が困難であった症例を忌憚のない意見を出し合っており、お互いに勉強している。狭い福井県でも、珍しい疾患が数多く発表され、驚嘆することが多い。その他に、福井脳血管障害研究会、福井MR研究会、福井脳神経外科セミナー、福井脳神経外科フォーラムなどが開催されている。

福井県は嶺北および嶺南地方からなり、縦長の地形である。このことは、救急医療の一端を担う脳外科診療を行う場合、いつも念頭に置かねばならない。現在、福井県には、脳神経外科医が46名おり、そのうち専門医資格を有する者は41名である。1施設で常勤医が2名だけの施設が4箇所あり、そのうち嶺南が2箇所、慢性的に補充されていない。これらの施設では、手術が深夜や早朝に及んだ場合でも、翌日は休暇をとることが出来ない。1施設に最低3名の常勤医が必要である。単純に計算しても、現在最低4名の脳神経外科医の補充が必要である。

平成16年に開始された新臨床研修医制度の影響で、これ以降福井大学では新脳神経外科医は0名である。小児科や産婦人科の医師不足が叫ばれているが、外科系で特に脳神経外科は全国的に激減しており、卒後3年目以降の後期研修医は現在260名である。脳神経外科入局0名の大学は21校、脳外科専攻0名の県は6県である。現在の研修医制度の功罪に関して多くの意見があり、最近、厚労省は研修プログラムの独自化を認めた。今年は、初めて8名の前期研修医が福井大学脳外科研修に参加している。外科必須研修に脳外科が選択枝として認められた成果である。その内1名が来年より後期研修医となり、脳外科専門医を目指す。脳外科医を目指す動機づけには、学生実習と前期研修が最も大切である。関連病院の脳神経外科臨床教授

の学生教育に対する熱意に敬意を表する。

日本の脳神経外科専門医制度は、昭和41年に発足し、麻酔科に次いで2番目に誕生した制度で、日本における専門医制度をリードしてきた。卒後7年目に専門医試験があり、筆記試験に合格した人は口頭試験を受験でき、合格率は60～70%と難関である。合格後、所定の生涯教育を継続している。国民病である脳卒中をはじめとして頭部外傷、脳腫瘍、小児奇形、脊髄・脊椎・末梢神経疾患、てんかんやパーキンソン病、三叉神経痛や顔面けいれんなど、扱う疾患は多岐にわたる。これらの疾患のうち、脳血管内治療専門医や脊髄外科専門医の認定制度が各学会で制度化され、脳神経外科専門医取得後の医師がこれらに挑戦している。脳神経外科専門医は、日本専門医制認定機構により平成19年度に18基本領域学会の専門医の一つとして認定され、平成22年11月以降に見直しが進められている。このため、専門医育成のための更なる改革が必要で、学会は研修プログラムの作成、指導医や認定研修施設の見直しを行う。私が過去10年間専門医認定委員を担当した経験から、試験内容は、十分に国際的に通用するものであると思われる。さらに受験前の研修内容が十分に把握できるよう、私が平成12年に提案し、平成16年より「研修記録帳」による詳細な研修内容の記載、専門医受験時に記録帳の提出が義務づけられた。今後は、詳細な研修プログラムを作成し実行すれば、専門医制評価・認定機構による評価の見直しに合格するであろう。

脳神経外科診療は外科部門の二階部分で、subspecialityではないかと、基本診療科から外そうとする意見があるという。救急患者を扱う脳神経外科がどこに存在するか即座に判らないようでは、日本の医療の崩壊である。これまで果たしてきた脳神経外科診療を基本診療科として永続的に認めてほしいと念願している。